

鏡野万葉のみち青少年文芸選奨・香々美川文芸選奨

第二十一回鏡野万葉のみち青少年文芸選奨と第十一回香々美川文芸選奨に
寄せられた多くの作品の中から入賞者が決定しました。(敬称略)



第二十一回 鏡野万葉のみち 青少年文芸選奨受賞作品

現代詩の部

【小学生の部】 応募なし

【中学生の部】 応募なし

《入選》 該当なし

《佳作》 該当なし

【青年の部】 応募なし

短歌の部

【小学生の部】 応募なし

《入選》 該当なし

《佳作》 該当なし

【中学生の部】 応募なし

《入選》 上齋原中学校三年 柳井 麻衣

真つ暗な海にキャンドルライト浮く
いかり船の形は見えず

《佳作》 上齋原中学校二年 藤木 悠希

あこがれの異文化に触れ帰国して
初めて気づく家のやさしさ

運動会実行委員になった時
みんなの思い出作ると決意

【青年の部】 応募なし

俳句の部

【小学生の部】 応募なし

《入選》 鶴喜小学校六年 東本 大吾

夕方にきれいにひびく虫の声

《佳作》 南小学校六年 中尾 大樹

ひまわりはあつさにまげずさいている
香々美小学校二年 わに ひろと

うずの道なるとがまわる夏の海

【中学生の部】

《入選》 上齋原中学校一年 與木 将太

その角はいつ使ったカブト虫

川柳の部

《佳作》 鏡野中学校三年 坂口 和章

扇風機ついているままでねているよ
上齋原中学校一年 渡辺 さき

オニヤンマみどりのメガネかけている

【青年の部】 該当なし

《入選》 該当なし

《佳作》 該当なし

川柳の部

【小学生の部】 応募なし

《入選》 香北小学校六年 久保 聖徳

カブトムシ森の王様つかまえた

《佳作》 南小学校三年 小椋 菜央

朝ごはんいつも家ごとくといっしょだよ
香北小学校六年 武川 早紀

冬がさり緑のしげる春がくる

【中学生の部】

《入選》 上齋原中学校一年 田淵 創

かえるくん君もてみるのどじまん

《佳作》 鏡野中学校三年 竹下 真生

こんなときいたらいいのにドラえもん
鏡野中学校二年 長尾 千里

弁当の身が分る冷凍庫

【青年の部】 応募なし

宇佐見賞

《短歌の部》 上齋原小学校五年 池田 宗一郎

おきなさいふとんの中にしがみつき
後五分だけねかしといてよ

鏡野中学校三年 小林 明日香

頑張った最後の大会汗に濡れ
涙をこぼし夏が終わった

俳句の部

南小学校四年 西村 佳穂

ドキドキでおばけやしきの列にいる

鏡野中学校三年 産賀 信太朗

積乱雲仰ぎ見れば嗚呼高い

鏡野町上森原 池田 亜加理

奥津湖の水面に映る萩の花

短歌の部

《大賞》 鏡野町市場

火を打ちし刈草の炎を這ひ
瑠璃色の風になりゆくけむり

《香々美川賞》 笠岡市吉田 吉岡 琴美

香々美川雪解け水をたたへつつ
ビバルデイの「春」うたひつつゆく

《優秀賞》 鏡野町越畑 頼経 照子

赤黒く桑の実熟る木に登る
蟻一列の続きゆく午後

《奨励賞》 鏡野町古川 日笠 千代子

たちまちに小川に添ひて飛び去りぬ
翡翠の色もあざやかにして

俳句の部

《大賞》 鏡野町真加部

鳳仙花弾けて話はつみけり
《香々美川賞》 備前市日生町 入江 野枝

芒原の道のいも風の中

《優秀賞》 津山市宮部下 林 勝義

螢火のひとつ増えては闇深む

《奨励賞》 鏡野町真加部 井上 安子

百姓に嫁きて古稀の秋じまい

川柳の部

香北小学校六年 富岡 望

ことばとはこえだけではなくこころでも

鏡野中学校三年 西中 千尋

この冬をこえれば花の高校生

第十一回 香々美川文芸選奨受賞作品



川柳の部

《大賞》 久米南町下弓削 大家 八郎

風止めて戻れる駅がひとつある

《香々美川賞》 岡山市山崎 山本 美枝

父の樹に添うた若芽がたのしい

《優秀賞》 鏡野町上森原 高田 釣狂(惇三)

伝来をまもる無言のささくれ手

《奨励賞》 美咲町連石 山本 照雄

清流が育てる文化蜜の里

宇佐見賞

《短歌の部》 鏡野町寺和田 藤岡 昭子

紫陽花の花色変はる妖しさに
蜘蛛の金糸が光り始める

《俳句の部》 鏡野町河本 若林 八重子

石清水神代の色を失はず

《川柳の部》 津山市瓜生原 勝山 秀子

人を恋う紙人形に足がない

宇佐見賞について

平成19年度より「香々美川並びに万葉のみち青少年文芸選奨」に「宇佐見賞」を創設いたしました。これは、(故)宇佐見陳正氏のご厚志をもとに文芸活動を推進する賞としました。